

中学生の「税についての作文」

大川税務署長賞

税に関する大切さ

大川市立大川桐薫中学校

三年 大坪 眞子

近年、日本の夏は、異常気象が毎年のように起こっています。年々、最高気温の記録が更新され、熱中症や熱中症コロナになる人が増え、救急車の出勤も増加しています。これらの救急車や医療費など全て、税金で賄われています。この課題の作文を書くにあたり、今まであまり関わりがなかったと思っていた税について調べてみる事にしました。すると、今まで私が歩んできた人生の中で、いろんな場面で税金と関わりがある事が分かりました。

私は、幼少期から気管が弱く、高熱が出て下がった後に咳が二〜三週間ぐらい止まらないという気管支炎になる事が多く、その度に病院に通う日々でした。咳が止まらず、ぐったりしている私に看護婦さんが、

「咳が止まらんと疲れるね」

と、いつも優しい言葉をかけてくれた記憶があります。今はもう、この病院はありませんが、院長先生も私の体の症状に応じて薬を変えてくれたり、親身になって対応してください

ました。母は、薬代や診察代など毎回支払う事はなかったのですが、とても助かったという話をしてくれました。調べてみると、子供医療費制度という中学三年生までの子供が健康保険による診療を受けた時の自己負担分を助成してくれるという制度です。私は、この制度のおかげで病気も良くなり、手厚い医療を受けられたと思います。

他にも、私達が何気なく使っている教科書などです。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう」と、全ての教科書の最後に、この言葉が書いてあります。義務教育の時間もあと半年程です。今まで無償化にしてもらった税金に感謝し、残りの学校生活を意味あるものになりたいです。

社会保障には、年金、介護、福祉、医療など、これからの私達の人生において、なくてはならない保障がたくさんあります。社会保障四経費として、幼児から高齢者まであらゆる世代が支えられ、安心して生活できる社会が実現されると思います。

私は今まで税金と聞いても、まだ関係のない事だと思い、全く興味が湧きませんでした。

しかし、この先、自分がどのくらい長生きできるのかも分からない、今や予測できない事件や地震が続いています。地震や災害時に必要な、「復興特別所得税」があり、令和十九年まで課税期間となります。私達もいつこういった災害に見

舞われるか分かりません。今は納税の義務がなくても、数年経てば、必ず納税の義務を果たさなければなりません。税金を納めてくれる方々に日々感謝し、働き手になる日が来たら、私達若い世代が、社会に貢献するために、自分達が払う税金がどのようなところに使われるのか知り、理解する事が大切だと思います。税の在り方をよく学び、地域の一員として自分に出来る事はないか、日々成長していけたらと思います。

